

## 令和5年2月1日 市長定例記者会見 会見録

### ◆司会

それでは、ただ今から市長定例記者会見を始めさせていただきます。  
市長、よろしくお願いいたします。

### ◆市長

はい。よろしくお願いいたします。令和5年度の2月補正予算案について、ご説明をいたします。お手元の資料ですけれども、「令和5年度2月補正予算案について」というものでご説明をいたします。まず全体ですけれども、補正予算の規模88億8,408万円、一般会計が90億3,000万円、このようなこととなります。そして、内容は国の総合経済対策を活用して、「物価高騰対策」「子育て支援・教育環境の充実」「防災・減災、国土強靱化」「地域経済の活性化」、この4つを柱に予算を編成いたしました。それぞれの事業の概要についてご説明をいたします。

まず、「物価高騰対策」ですけれども、これは82億8,400万円余りとなります。主な事業としては、「低所得者支援及び定額減税補足給付金給付事業」というものです。これが79億5,000万円あまりとなります。これについては、物価高騰による負担感の大きい低所得世帯の生活への影響緩和をするために、住民税非課税世帯に対して、令和5年度の5月補正予算、そして、11月の補正予算によって、合計10万円の給付金を支給してきました。さらに、国は住民税均等割のみが課税されている世帯や低所得の子育て世帯、あるいは令和6年度に予定している定額減税の恩恵を十分に受けられないと見込まれる方等への給付金の支給を決定しました。そのための予算として、これを6年度に速やかに支給できるよう補正予算として計上するものです。

それから、「給食費の負担軽減事業」ですけれども、これは3億3,300万円余りとなりますが、これは給食費が高騰しています。令和5年度も、物価高騰により食材費が上がった分については、市立小中学校やこども園等の給食費についての保護者負担を増やすことなく、これまで通りの栄養バランスと量を保った給食の提供を行ってきました。令和6年度においても、引き続き食材費の高騰が、値上がりが続くと見込まれています。国の交付金を活用することで、食材費の値上がり分、この相当分の給食費の保護者負担額をゼロとするというものです。続いて、「子育て支援教育環境の充実」です。これは20億円余りとなりますが、主な事業は、小中学校の特別教室の空調設備の整備事業です。これについて、12億5,000万円余りとなりますけれども、すでに令和5年6月補正予算で、設計を始めておりますけれども、より前倒ししてやろうということで、この補正

予算を活用して、早めに設計、そして、一部の工事に入るといふものです。続いて、トイレのリフレッシュです。これについても、家庭のトイレが洋式化する中で、学校のトイレについても、和式は抵抗感があるということで、洋式化を求める声が非常に強いわけでありましてけれども、それについて、静岡市もずっと進めてきました。ただ、今のペースでやっていると、令和 19 年度までかかってしまいますので、これを前倒ししてやろうということで、令和 13 年度に全て完了するということにいたしました。このために、補正予算で前倒しで実施をしていこうというものです。トイレの洋式化率については、今年度、令和 5 年度の末の見込みで、67.8%で3分の2以上にはなってきてはいますが、全国平均よりはやや低い状況にあります。これを早めに進めることで、トイレの環境整備をしていきたいと思っています。

それから次は、「子どもの性被害防止対策事業」です。弱い立場に置かれた子ども・若者が、性被害・性暴力被害に遭う事案が後を絶たないという状況があります。これについて、国が緊急的に補正予算を確保して、この対策パッケージを進めていこうとしています。静岡市においても、子どもへの性被害防止の対策を強化するために、この国の補正予算を活用して、具体的には、子どもが長く過ごすこども園等の施設において、着替えの時の子どものプライバシーを保護するパーテーション等を設置するというものです。2,322 万円になります。それから1か月検診ですけれども、「1 か月児健康診査」ですけれども、これは1,448 万円余りになります。これについて、今まで生後4か月、10 か月、1 歳6か月、3 歳の子どもに対する健康診査を実施してきてはいますが、やはり切れ目のない健康診査の体制を拡充して、子どもの身体発育状況、栄養状況の異常を早期に発見するために、生後1 か月頃の乳児に対する健康診査を実施するというものです。

3 番目が「防災・減災対策」です。全体としては 17 億 6,000 万円余りになります。最初の1 つは、「静岡型災害時総合情報サイト構築事業」ということです。これについては、令和 4 年度の台風 15 号災害で情報の収集が遅れたり、あるいは情報発信が不十分だったということが明らかになったので、令和 7 年 1 月の運用改修に向けて、災害時総合情報サイトの構築を進めているところです。この運用によって、市民の皆様からの災害情報を簡単に受け入れられるようになり、そしてまた、容易に状況を市民の皆様がわかるように、そういったシステム作りを進めております。その他にも浸水被害対策等の事業を前倒しで進めたいと思います。

続きまして、「地域経済の活性化」ですけれども、これについては6 億 3,000 万円余りになりますが、主な事業は「南アルプスユネスコエコパーク・ミュージアム整備事業」、4 億円です。これについては、今年の6 月でエコパーク登録 10 周

年を迎えますので、その機会を活用して、このミュージアムを作っていこうというものです。2016年に閉校した旧井川小学校というのがありますが、それをミュージアムに再整備していきます。ミュージアムではエコパークについての理解を深めていただき、保全活動の拡大や来訪者の増加、地域経済の活性化に努めたいと思っています。

それから、「清水の庵原球場の整備事業」です。「ちゅ～るスタジアム」ですけれども、これについては、1億9,000万円余りで、照明設備の改修をしたいと思っています。今の照明が、旧来型の照明システムで非常に暗いということと、省エネ性能が低いという状態になっていますので、この夜間照明のLED化を前倒しで実施いたします。

それから「その他」として、これは36億円余りの減になっていますから、減の大きなところは、海洋文化施設の建設事業についての予算が減っている分で、それ以外については増ということになりますけれども、まず「南アルプスエコパークの保全活用基金」というのを設置いたします。これについては、エコパークのこれからの保全や利活用を進めていくためには、ぜひ皆様方、社会全体でふるさと納税等いただいて応援をしたいと思っています。そのために、用途を明らかにする基金のこういう形で使うということを明らかにして、その基金に対してふるさと納税等をいただきたいと思います。と思っています。

もう1つは「美しく豊かな駿河湾保全活用基金」ですけれども、これも同じことで、日本一の深い湾の駿河湾とこれの環境を整備したり、海洋資源を活用するためにふるさと納税等を活用して、基金を積み立てて、それによって安定的に事業を実施していこうというものです。

それから3番目は、「委託事業の課税取扱い変更に伴う消費税等の費用負担」ということで1億2,000万円になります。これは以前発表させていただきましたが、障害者総合支援法に基づいて実施していた事業について、消費税の取扱いについて、錯誤があった、誤りがあったということです。その部分を補正して、事業は事業者がやられていますから、事業者に対して消費税の負担をしよう、受託者になりますけれども、受託者に支払って、それを通じて消費税を払っていきましょうというものです。

続きまして、「市民文化会館の整備事業」です。これは債務負担行為になります。123億7,000円余りになりますけれども、これは、従来PFI事業でやることにしておりましたが、これをやめて一般の公共事業で実施していきますが、そのための債務負担をするものです。文化会館については、令和7年4月から休館して、令和9年の4月、2年休館して一部開館、そして、3年の休館後、全部開館ということで、今、進めておりますが、これを早急に実施していきたいと思っています。

それから「海洋文化施設建設事業」ですけれども、清水の海洋・地球総合ミュージアムの整備ですけれども、これについて、特定事業契約をSPCというところ、特定目的会社、事業会社ですけれども、そこと契約をしておりますけれども、令和5年3月から施設の設計に着手をしましたが、そして、今年の1月には着工する予定だったんですけれども、事業者とこの事業の一部受託を予定していた東海大学の間で調整に時間を要しているということで、スケジュールが後ろ倒しになっております。事業期間を1年間延長する関係で、令和5年度の事業費を減額するというものです。以上が全体像になります。

説明は以上です。ありがとうございました。

#### ◆司会

はい。本日、幹事社質問も、補正予算案に関連するご質問ということでお伺いしておりますので、先に幹事社質問の方をお願いしたいと思います。時事通信さん、よろしくお願いいたします。

#### ◆時事通信

時事通信と申します。くふうハヤテの「ちゅ～るスタジアム」の関係で、くふうはやてベンチャーズ静岡のキャンプが「ちゅ～るスタジアム清水」で、先月25日から始まりまして、開幕も3月に迫っています。スタジアムの改修について、先ほどもお話ありましたが、進捗状況と今後のスケジュール感を教えてください。

#### ◆市長

はい、ありがとうございます。今、「ちゅ～るスタジアム清水」については、改修を急ピッチで進めています。進捗状況ですけれども、まず市民、利用者の安全対策というのが大事です。11月の補正予算で、内野の防球ネットの嵩上げ、あるいは場外の防球フェンスの新設というのを1月中旬から着手しております。順調に進んでいます。開幕には間に合うということです。それから、長年補修を十分に行って来ていなかったという理由で、外野のラバーフェンスが傷んでいるということですが、主だった箇所についてはすでに完了して、残りの細かい部分についても、3月中旬までには完了の予定です。

それから、いなば食品株式会社から「ちゅ～るスタジアム清水」のネーミングライツをいただきましたが、その看板を掲げる場所ですけれども、錆や汚れが目立っているということで、やはりネーミングライツをいただいて、多額のライツの金額をいただいた分は活用して、外壁の塗装を3月の中旬までには完了したいと思っています。

それからLEDですね。これについては、早急にやりますけれども、これは開幕には間に合わないということになります。

それから懸念されている交通影響対策ですけれども、これは今、駐車場の拡充について、新たに駐車場といっても、空いている土地をうまく活用した様な形の駐車場になりますけれども、地域の皆様といろいろな意見交換をさせていただいて、何とか早急に確保したいと思っています。さらに例年の経年の劣化対策ですね。共用開始後 20 年を迎えていますので、雨漏り等も生じていますので、そういった対策を進めていきたいと思っています。

最後にもうひとつですけれども、こういう「ちゅ～るスタジアム清水」という可愛い愛称が付いたわけで、これまで以上に、多くの方々に親しまれる球場にしたいと思っています。子ども達は楽しめる、あるいは動物愛好家の方々、そういう方も含めて気楽に皆さん来ていただいて、安全快適に観戦利用していただけるような改修を進めていきたいと思っています。以上です。

#### ◆時事通信

追加で1点お伺いします。開幕戦が「ちゅ～るスタジアム」本拠地でパ・リーグ3連覇のオリックスとの対戦ということで決まりまして、どんな試合を期待するか教えていただきたいです。

#### ◆市長

楽しみ以外ないですね。もうすでにキャンプの状況で、多くの方が、ファンの方々が訪れていただいて、すでに交流も始まっています。開幕戦も大いに盛り上がると思っています。ハヤテさん、静岡でキャンプをされていますけれど、静岡、暖かいんですね。選手の皆さんもおっしゃっていると思いますけれど、南に行かなくても静岡で十分キャンプをできますので、今日も20度で全国的にも相当暖かい予想が出ていますけれども、そういった暖かい所でキャンプをしていただいて、そして移動することなくキャンプをしていただいて、まずは開幕戦で勇姿を見せていただきたいと思っています。

#### ◆司会

それでは、ここまでのところで皆様からのご質問をお受けしたいと思っています。NHKさん、お願いいたします。

#### ◆NHK

はい。NHKです。こちらの補正であれですね、ちょうど地震から1か月ということもあたりする中で、こちらの総合情報サイト構築ってのがあたり

します。SNSから自動収集とか、それから市民からLINEで投稿ってのがありまして、心配なのはフェイクの関係でございます。そこら辺はAIでちゃんと排除できるかどうかというふうな話がまずひとつ。それから能登の場合ですと、こちらとは状況が違うかもしれませんが、通信の基地が遮断されちゃって、そもそもネットに繋がらないってのもあったりすると思うんですけど、そこら辺については、どういうふうに、そこら辺を回避してやっていきたいか、その辺りのお考えをお聞かせください。

◆市長

はい。いろいろな誤情報が入ってくるという可能性はありますので、それは今、AIが急速に進んでいますので、その排除は可能ではないかなと思います。例えば、2つの情報を付き合わせるとか、そういうことも可能ですし、いろいろな方法があると思いますので、これから構築に向けてその辺りを進めていきたいと思っています。

もうひとつ通信機器の問題は、ご指摘のとおり全部やられると大変なことになるわけですが、特に問題は完全に停電して、孤立するような所の問題があると思いますけれども、市街地についてはいろいろなバックアップも可能だと思っています。通信各社も、早めにいろいろなシステムを持ち込んでくださったりして、災害の訓練の時もそんなことをやっていますので、市街地と言いますかね、平地については、それほど心配していないのですけれども、中山間地については、いろいろな課題もあると思いますので、それについても、冗長性の確保みたいなところが非常に大事ですから、実は、この通信系についても、別途検討しておりますので、それは改めてお話できる時があるのではないかと思います。今、まだ検討段階です。はい、以上です。

◆NHK

はい、ありがとうございました。

◆司会

その他いかがでしょうか。はい、静岡朝日テレビさんお願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

静岡朝日テレビと申します。補正予算案について伺います。海洋文化施設の事業に関してなんですけれども、遅れているということなんですけれども、まずその理由を伺いたいのと、あと沼津市の「あわしまマリンパーク」が閉業を発表しました。県内にできる新しい水族館として、どのような使命感を持った施設になるのか、

併せて教えてください。

◆市長

はい。まず遅れている理由ですけれども、これはこの事業を行う会社と、東海大学の間で、飼育であるとか、あるいは生物に関するいろいろな問題については、東海大学が支援をするということになっておりますが、例えば魚の種類の選定であるとか、設備の内容であるとか、維持管理コストをどうするかとか、そういうことについての協議に、かなり時間を要しているようです。かなりまとまってきたということを聞いていますので、まもなくその協議が整うのではないかなと思っています。

それからもう1つ、建物の技術的な問題として、杭がどのくらいまで必要かということですが、当初予定をしていた、市で調査をして、このくらいあるというのを確定していたんですけれども、その後、事業者がボーリングをしたところ、深い所、深さ 35mの位置に、元々支持をするところがある予定だったので、それが十分確認できないので、もっと深い所まで杭を打っていかないといけないということで、その工期延長も見込まれているという状況です。ただ、全体としては、もう方向性が見えてきましたので、これから早期に、当初の予定からは遅れてしまいますけれども、これからは順調に進むと思っております。

それから新しいミュージアムの役割ですけれども、このミュージアム、これは普通的水族館機能と言いますか、楽しむ機能ですね。それともうひとつは博物館機能です。ですから、博物館機能というのは、研究したり、そういったこと、あるいは研究成果の展示みたいなことも必要なわけですが、この機能を持っていますので、「あわしま」とはちょっと違う性格になります。ただ、海洋生物、水族館機能というのを期待されている方々も非常に多いと思いますので、皆様が楽しめる施設、そして単に楽しめるのではなくて、文化的というか、教育であるとか、あるいは海洋保全の重要性について理解をしていただけるような役割、そういったものを持たせていきたいと思っております。以上です。

◆司会

はい。中日新聞さんお願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。今の海洋文化施設について伺います。協議が長引いているということですが、この協議で市長は、以前から生体展示の取り止めだったり、減少だったり、見直しを進めたいと表明してましたけれども、そのご意見は伝えている

んでしょうか。

◆市長

はい、それは伝わっていますね。生体展示の見直しというよりも、やはり、このミュージアムの目的ですけれども、やはり研究であるとか、そういった研究者との連携というのを重視して行ってほしいというのが、私の考えになります。したがって、それについては十分汲み取っていただいて、事業会社も汲み取っていただいていますので、それについて検討はしていただいております。

◆中日新聞

市長のご意見を反映しようとして長引いているというわけではないですか。

◆市長

それではないですね。その部分はもちろん、時間は取っていますので、私が指摘したことについて、時間がかかっているのは事実ですけれども、それと同時に、東海大学との協議に時間を要していますので、それは吸収されているというんですかね。同時並行でやっていて、東海大学の協議が長引いている方が長い時間取ってますので、ですから私がそのD×であるとか、あるいは研究とかですね、教育であるとか、そういった部分を強化してほしいといった部分の理由で、今の進捗が遅れているわけではありません。

◆中日新聞

お金の面なんですけど、市から 169 億円を支出するということなんですけど、これは、減る予定、変わらない、増えそう、何か見込みありますか。

◆市長

これはこれからの検討になりますけれども、契約は、もうその契約になりますから、なかなかそれで減額ということにはならないと思います。大事なことは、施設の設備費ですね。建設費よりもその後の運営費と、それから赤字が出た時の問題、これが一番課題になる。その部分についても市が負担するという契約になっています。これについて、正直申し上げると私は疑問を持っているわけですが、これはすでに契約が済んでいるものですから、なんともしがたいということですね。契約の内容そのものは変えられないという状況にあります。したがって、私ができることは、この運営費のところ、より合理的なものになって、そして収益が生まれるような施設になる。赤字で補填が必要だなんてことにならないで、収益を得て、しっかりと利益が出て、その利益を、また展示



の魅力に変えていくという、そういう好循環が生まれるようにしていくということですので、そういった話し合いはこれから進めていきたいと思っています。

◆中日新聞

ありがとうございます。すいません、最後に、先ほど市の調査では、地下 35m に地層の硬い部分があったけども、工事を始め始めようとしたところ、だいが足りなかったと。「50m必要ということがわかった」とおっしゃいましたが、ちょっとそこを素人目線で見ると、「杜撰じゃないか」という印象がありますけど、こういうことは建設現場ではよくある、いたしかたないことなのか、市長の受け止めをお願いします。

◆市長

これはよくあることです。地中の中で、どのくらいの間隔で、このボーリング調査をするか、地中調査をするかということですが、例えば 50m 間隔、もうちょっと短く 30m 間隔でやったとしても、30m 間隔ですから、その間の 15m の所はやっていないわけですね。そうすると、この両側でやった時に、この辺りはどうかというと、例えば、ここに支持層があったとしますね。こちらが土でここに支持層があったという時に、ここからここはもう「えい、やー」なんですね。つまり、まっすぐここはたぶん繋がっているだろうと思うわけですね。ところが、ここで 15m のところで掘ってみたら、「あれ、支持層が出てこない」と。この下になってしまうと、こういうことはあるわけですね。ですから、これはこういう建設工事ではよくあることということになります。

◆中日新聞

ありがとうございました。

◆司会

その他いかがでしょうか。静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞と申します。続けて海洋文化施設の関係で質問なんですけども、事業期間を 1 年間延長するというのですが、そうするとその着工する時期も 1 年間延長になるのかとか、施設の完成とか、開業の時期っていうのも、今のスケジュールから 1 年間後ろ倒しになるというふうに考えてよろしいんでしょうか。

◆市長

そうですね。現状で 10 か月の遅れになっていきますので、これから建設の段階で、どれくらい取り戻せるかということになりますけれども、なかなか取り戻しというのは困難ですので、おそらく 10 ヶ月は開館が遅れるのではないかなと見込んでいます。その分で、元々の契約では実施期間が決まっていますので、それについてもっと延長するというのが、運営期間ですね。建設期間と運営期間になりますけれど、運営期間が短くなってしまいますが、それについての変更も必要だと思っています。

◆静岡新聞

あと、すいません。関連で、先ほど杭の話が出たんですけども、これを、すいません、これも素人的な考えなんですけども、その 35m に想定したものを 50m くらいに延伸すると、そうすると杭の本数だとか、太さっていうのも変わってくる可能性もあるような気もするんですけども、それを受けても 169 億っていう契約額ってのは変更というか、影響はしないってことなんじゃないでしょうか。

◆市長

はい。これは契約の問題ですので、必ず事業においては、リスクがあるわけですね。予期しないリスク、例えば建設コストの高騰リスクであるとか、予定した材料が何かの都合で入らなくなるというようなことがあるわけで、そういうリスクについては、事業者が元々リスク分担するというところで、契約が成り立っている場合は、事業者が飲み込むということになります。もちろん PFI 事業というのの一番大事なポイントというのは、リスク分担ですね。民間と公共でどういうリスク分担をするかということが大事ですから、そのリスク分担については、細かく契約書の中で書かれています。市の理解としては、先ほどの杭の問題については、事業者がリスク分担をする問題だと思っていますので、建設費というのは、市と事業者の間の契約額には変更がないと思っています。

◆静岡新聞

最後に 1 点、「小中学校の校舎のトイレのリフレッシュ事業」なんですけども、これ補正で一部前倒しすると、事業費を。それによって、完了する見込みっていうのも、これまでの令和 19 年度から 23 年度に完了が前倒しされるっていうふうに書いてあるんですけども、これ補正で今年度分を前倒しすることによって、これだけ前倒しできるのか、それともこれからもずっと前倒しを続けていくので、最終的に 6 年間目標短縮できますよってということなのか、どういう

意味でしょうか。

◆市長

まずは設計を進めて前倒しをしますけど、それだけでは当然 19 年が 13 年とか 6 年も早くなったりしないわけで、その後予算を増額していきます。

したがって、設計をどんどん、どんどんやって、そして工事を、例えば補正予算であるとか、いろいろな機会を通じて補正予算を確保して、前倒しで実施していくということになります。何でやるかということ、令和 19 年度ということ、今から 14 年後ですから、14 年後 100%になるといっても「うーん」という感じじゃないですか。一般的な感覚として、13 年度が早いかどうかというのはありますけれども、今から半分くらいの期間でできることになりますので、そういう面では倍速でやるようにしているというご理解をいただければと思います。

◆司会

その他いかがでしょうか。先にすみません。朝日新聞さん、お願いいたします。

◆朝日新聞

すいません、朝日新聞です。ちょっとしつこくて申し訳ありません。また海洋施設なんですけど、ちょっと確認なんですけど、1 年間の事業期間延長っていうのはあれなんですけど、オープンは、ここには共用開始が 8 年度中なんですけども、元々令和 8 年 4 月予定から、オープン自体も 1 年延長するというイメージでいいんでしょうか。

◆市長

10 か月の延長、今、10 か月遅れになっていますので、これでどうなるか、ちょっと今の段階で確定的には言えなくて、それをどのくらい取り戻せるのか、あるいはやり始めてまだ何か予期せぬ問題が発生する可能性もありますから、今の時点でいつとは言えないわけなんですけども、今で見る限り 10 ヶ月遅れになっていますから、普通に考えれば 10 ヶ月開館も遅れるということになります。

◆朝日新聞

すいません。ちょっと海洋ミュージアムの関連で、先ほどのリスク分担の中に出てた建設資材コストの高騰というのがあったと思うんですけども、今、能登半島の地震でおそらくこれからいろんな復興の建設資材も上がってくるかなあというふうに思います。それで、それが 10 か月遅れることによって、上がってきた影響を受けると。それと本来できてきたであろうものが、できなくなって

しまうとか、そういう10ヶ月遅れの影響っていうのは、何かしら出てくる可能性ありますでしょうか。

◆市長

いや、まだちょっとそこは、この海洋文化ミュージアムミュージアムに限らず、全体として見込んでない状況だと思います。全体として、石川県においても、あるいは富山県においても、例えば半導体の生産の回復しているような状況も見られますから、そういった面での影響はそれほどでもないのではないかなと思います。

もうひとつ復興需要で、資材がそちらを優先的に供給するというのは、当然そうやるべきですので、全体として資材供給、資材の需給ですね。需要と供給が逼迫してきて、必要な資材がなかなか手に入らないという事態は、発生する可能性はあると思っています。ただちょっとまだ見込めないので、今の時点でなんとも言えないという状況です。

◆朝日新聞

ありがとうございます。すいません、最後に。先ほどの話で…ごめんなさい。先程話の「ちゅ～るスタジアム」の話の中で、今回の補正には入ってませんが、「子どもとか動物愛好家含めて楽しめる施設にする」とおっしゃってましたけれども、これなんかこの改修とか、増築っていう中で、何かしらそういう施設的なものを今後は検討していくということなんですか。例えばドッグランの施設とか。

◆市長

そうですね。特に球場の中の外野のスタンドであるとか、内野の外野に近い所であるとか、そういう所でそういうことができないかというのを検討中です。意外に何か制限もあって、例えばバックスクリーンの所で、ドッグランを造って遊べるようにしたらという、私はそう思っていたのですが、選手の皆さんから邪魔だから、それは選手の皆さんって、ハヤテの皆さんじゃないですよ。多くの選手の皆さんから、やはりバッターが振る時に向こうの所でウロウロされるのは嫌なんだそうです。ですから、なるほどね、と。ちょっと素人でわからない問題もあるので、その辺も含めて「どの位置にしようか」というのを今考えているところです。

ただ、ペット連れで、何か食べ物を食べながら野球を観戦できるような、そういったものにはしたいと思っていますし、「ちゅ～る」も、そこで買えたらよい

かなと思いますけどね。はい。

◆司会

はい。読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

読売新聞社です。ハヤテ関連でお尋ねします。先ほど市長は開幕戦への期待を述べられましたけども、発表された公式日程を見ると、ハヤテの場合、ビジター戦が67試合もあって、名古屋はよいとしても、福岡やら岩国やら西宮やら大阪やらと、かなり遠方に遠征しなければならなくて、遠征費もかなりかかりそうなんです。そもそも2軍だけのチームで採算が取れるというビジネスモデルが成立するののかどうかってことも、まだ誰も証明したことがありませんし、これまで私、杉原代表に何度か会見に質問する機会があったんですけども、経営計画ですとか、観客動員目標とか、例えば球団命名権の金額とか、ユニホームの制作費用とか、お金が絡む質問をすると非公表と回答されることが多くて、大丈夫なのかと、ちょっと少し心配になっております。市はハヤテの経営計画について、ある程度聞いてらっしゃるんでしょうか。

企業負担を全面バックアップする立場として、難波さんは何とか球団が黒字化できるというふうに考えていらっしゃいますでしょうか。

◆市長

はい。これは、まさにそのハヤテの名前「ベンチャーズ」になっていたように挑戦なんですよね。リスクはすごくあると思います。おっしゃるような、特に採算リスクですよ。採算リスクを上げたらもうキリがないくらいあると思います。普通は「やめまいか」じゃないですけど、やめるんですけど、それをやめないで挑戦されているわけですね。だから、やはり、私はその精神が素晴らしいと思っています。そこで我々がそのハヤテさんに対して、「経営計画を見せてくれ」と、そして、「あなた方本当に大丈夫なんですか」なんていうような失礼な話をする問題ではないと思っています。それは、経営者が一番よくわかっていて、これにチャレンジしよう、66年ぶりで、やはり新球団を作る時に経営リスクはいっぱいあるけど、チャレンジしようという思いでやられているわけですから、その思いを我々は共感して、全面的に支援していくというのが大事だと思っています。

その中で経営している間に、いろいろなリスクが表面化してくると思いますけれども、その中でできることがあれば、こちらでも支援していく、もちろん金銭的な支援をするということではなくて、経営が少しでもうまくいくように

側面的な支援をしっかりとやっていくというのが、我々の必要なことではないかと思えます。

もう一言申し上げますと、特にハヤテさんにしてみれば、静岡でなくてもよかったわけですね。だけど、静岡を選んでくださったわけで、それがまさに、ベンチャー精神、チャレンジ精神ですね。そして、野球で地域を盛り上げようという気持ちで、経営者がこの静岡を選んでくださったわけですので、その気持ちをしっかりと受け止めて、我々もできることをやっていくということが大事だと思っています。

#### ◆読売新聞

すいません、もう1点。幅広い意味でハヤテ関連ってことで、もう1点あります。先週の日曜日に、「ちゅ〜るスタジアム」で「清水庵原フェス」が開かれて、難波市長も挨拶されたと思いますけども、これは道の駅を想定した社会実験とのことですが、イベントの責任者の方に当日お話を伺ったところ、難波市政になって、道の駅整備に前向きな感触を得ているというふうなお話でしたけども、この庵原で道の駅整備に乗り出す検討を進められているのでしょうか。

#### ◆市長

道の駅整備というよりも、まずは道の駅というのは何かということですけども、これは普通、公共でやる場合は、公共でやる施設というのは、駐車場とトイレと情報施設なんですね。道の横にあって、休憩できる駐車場とトイレがあって、それで道路関係の情報、あるいは災害関係の情報が出るという、これが道の駅の一番の公共的な基本機能になります。それに加えて、民間収益施設として、いろいろな物販施設であるとか、レストランであるとか、そういうのが併設されていたり、あるいは、いろいろな文化体験ができるような施設も併設されて、人が集まる施設になるということになります。先ほど、最初の駐車場とトイレと情報施設、これについては、あの地域はちょうどインターチェンジから降りてきた所ですから、そういうものは必要ではないかな、とは考えています。ただ、あの場所に、庵原球場の下に、あるいは周辺に必要かどうかということはまだ決めているわけではありませんけれども、何らかの形で、そういった駐車場とトイレと、それから情報施設は必要ではないかなと思っています。そういった点の検討は進めているところです。ただ、道の駅ということではないですけど、それに先立って、今、懸念されているのは、やはり駐車場の問題ですから、駐車場の問題を先に解決していく必要がある。緩和をしていく必要がありますので、そういった面でも、まずは今、検討を始めているのは道の駅ということではなくて、駐車場をどこに確保するかということ、今、早急に検討している

ところでは、当然、その駐車場には、少し距離があればトイレを作るということも必要だと思っていますので、今そんな検討しているところですね。ですから、道の駅について、正確に言うと道の駅については検討していない、まず最初にやるべき駐車場等の確保について、今検討している、それについて、駐車場を確保する場所が、将来、道の駅になるということはあるかもしれませんが、道の駅前提で検討しているわけではないというのが実態です。

◆司会

はい。朝日新聞さん、お願いいたします。

◆朝日新聞

朝日新聞です。海洋文化施設の件なのですが、思ったより深い所に固い支持層があったってということは、思ったよりやわらかい層が、厚みがあったってことだと思ってしまうのですが、安全を確保するために技術上の困難が増したというようなことはあるのでしょうか。

◆市長

はい。それは、先ほど申しましたように確認した所の支持層はちゃんとあるわけで、その一部の部分に支持層がないということですから、その支持層を支持するというのは、こういう所で杭を打つわけですね。建物が上であって、杭をこう打った時に、ここで止まるか、もっと下までこうやらないと杭が入らないかということですから、杭が止まらないかということですから、そういう面で言うと、この杭を伸ばせば、この支持されているところで、ガチッと止まりますので、安全性上の問題はないと考えています。コストがかかるだけです。

◆司会

はい。その他いかがでしょうか。静岡朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

静岡朝日テレビです。すいません、ちょっと関連、リニアについて伺いたいですけれども、リニアについて1問、伺います。開業時期に関して、川勝知事側とJR東海側に認識の違いがあるようでして、仮にリニアが完成した場合、新幹線の、のぞみ機能がリニアに移行されて、最終的には静岡駅にも、ひかりが止まる回数が増えるのではないかとあります。難波市長は一連のこの流れ、考えの不一致についてはどのような認識をお持ちでしょうか。

◆市長

はい。開業時期は、JR東海が自分の、自社の事業としておやりになることですから、いつどういう方法で、どう開業するかということは、JR東海が決めることだと思っています。

ただ、社会的に影響のある事業ですから、地域の要望というのは、聞いていただくというのは大事だと思いますので、一方的に自社の都合でこう決めるということではなくて、やはり地域の声を聞いていただきたいのではないかな、と思います。

ただ、静岡には停まりませんので、リニアですね。静岡の声を聞いても、何も聞くことはないと思います。しがたって、JR東海さんがしっかりと経営、自社の経営の中で考えをまとめられて、必要に応じて地域の方々と話をする、これが基本だと思っています。繰り返しますが、静岡は停まりませんのでリニアは。開業時期について、あまり言及する必要はないと思っています。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございます。

◆司会

すいません。他に先に補正予算案に関するご質問、他にございますか。よろしいですか。では、その他のご質問があればお受けしたいと思います。

NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

はい。NHKです。先ほども関連質問したんですけども、今日は2月の1日です。ちょうど能登半島地震発生から1か月というふうなことがあります。この間、静岡からもいろいろ応援・援助、これから先もいろいろ続くと思うんですけども、まずはその1か月ということに対する所感、それから静岡市として地震を参考にしつつ、何かやっていかなければならないことを改めてお聞かせください。

◆市長

はい。本当にたいへん厳しい地震で、本当に空前とっていいくらいの状況だと思います。地震災害で起きる、ほとんど全ての災害、これが同時に発生をしたということで、まさに歴史的な、稀に見る厳しい災害だと思います。

その中で、特にこの寒い中で地域の皆様、懸命に努力されていることに敬意を表したいと思いますし、我々もできる限りのご支援をということで、人員を、



あるいは資材を送っているところです。これまでですけれども、1月31日現在ということになりますけれども、延べで2,777人があちらで活動しているということになります。今日時点でも36人が活動しているという状況になります。まだまだ、まだこの状況は続くと思いますし、それから、復旧復興の進展によって、現地のニーズ、そして外からの支援のニーズも変わってくると思いますので、金沢市に政令指定都市の現地本部というのが設置されていますけれども、その中で静岡市の職員が2人行って活動しています。静岡市の職員が、政令指定都市の代表として2人、そこで仕事をしていますので、その2人から逐次情報が入ってきますので、その情報をしっかり取って、そして必要な支援をこちらでできる限り、これからやっていくということになると思います。まだまだ時間がかかると思いますので、こちらとしても、全面的な支援体制を整えて、実施をしていきたいと思っています。以上です。

それで静岡に、ということですが、非常にいろいろな面で、これは危機管理総室が分析していますけれども、やはり脆弱性というのが、いろいろ課題が出てきたと思います。石川の場合は、やはり家屋の耐震強化の問題が出ていますけれども、静岡でもまだ十分とは言えませんので、これは補正予算には入れていませんけれども、令和6年度予算では、耐震強化については、さらに促進されるよう、90%以上の家屋の耐震化をされていますけれども、まだ残っていますので、それを一刻も早く耐震化が進むような予算も組んでいきたいと思っていますし、それから先ほどもご指摘ありましたような通信の問題、あるいは効率の問題、いろいろなことがあります。あるいは避難所の運営の問題、それから、最初の避難所、一次避難、1.5次、二次というところの中でもいろいろな課題がありますので、あまり1.5次、二次避難の問題についてまで、事前想定はしていないところですけれども、そういった問題についても、これからしっかり分析をしたいと思っています。危機管理総室が、そのあたりについては、今、一生懸命検討しています。

台風15号の災害の時もそうでしたけれども、非常に細かい分析を危機管理の部門で行って、そして改善点というのをきめ細かくまとめて、それを実行に移すということをやっていますので、今回の能登・石川の例をしっかり検証して、静岡市での災害対応力の強化に向けて、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

#### ◆NHK

はい、ありがとうございました。

◆司会

その他いかがでしょうか。SBSさんお願いいたします。

◆SBS

SBSテレビです。お願いします。東静岡のまちづくりのアリーナ事業についてなんですが、先日、難波市長自ら住民の方に説明されて、また4日に意見交換の場があるかと思えます。予算計上には早急に取り組むという、計上するためには急がなければというところもあると思うんですが、この2回目の4日の時には、ある程度その判断まで至りたいのか、この後まだ説明を続けたいのか、そのあたりのお考えはいかがでしょう。

◆市長

まず前提としないで、予算計上を前提としないで、前回の説明をさせていただいた時に、いろいろな課題の指摘がありましたので、その課題、あるいはご懸念ですね。そのご懸念に対しての市の考え方というのを、しっかりまとめて、ご説明をする、それについてまたご意見を伺って、その上でまた次の判断をするということになると思えます。あまり「こうだ」と決め付けてやるというやり方ではなくて、しっかりお話を伺いたいと思っています。

◆SBS

ありがとうございます。もう1点なんですが、一応なかなか意見を集約するっていうのは、完全に懸念払拭するのは難しいと前回お話をされたかと思うんですが、地元の方々の中でも様々な意見があって、市長のお考えとしては、どこをもって、いろんな意見がまだあるけれど、じゃあどこをもって事業化判断、予算計上になるとお考えでしょうか。

◆市長

「どうしても、これは地元では困る」という部分について、やはりしっかり受け止める必要があって、それをこちらで受け止められそうだという、受け止める覚悟、そして具体的な実行ですよね。それができるといことが判断できれば、とりあえずは、まずは前に進むということではないかなと思います。意見を聞いて、本当に事業リスクというのは必ずあるわけですので、あるいは地域への影響リスク、これは必ずあるわけですね。

ただ、それを100%詰めてやるということは、つまり不確実性があることについて、100%確実にしないと前に進めないということにすると、これはアリーナに限らず、どんな事業も進めないわけですね。

したがって、何とかこれはいろいろなリスクであるとかご懸念については対応可能であると判断をしたら、そこでその前に進むかどうかの判断をするということになると思います。

◆司会

はい、その他いかがでしょうか。はい、静岡第一テレビさんお願いいたします。

◆静岡第一テレビ

すいません。静岡第一テレビです。よろしくお願いします。日本平久能山のスマートインター周辺の一帯の整備について伺いたいんですけども、今、地域の方で事業が着々と進められてる最中かと思いますが、静岡市が目指す47ヘクタールの広い土地での開発になります。あの地域の一体整備が進むことについて、市長の期待感を教えてください。

◆市長

はい。たいへん期待をしています。静岡市は、平地面積が非常に少ないということが課題で、これまでいろいろな開発をしてきましたが、最近、あまり、ああいう面的な大きな開発をしていないのですね。ただ、特にまちづくり関係ではない。先ほどの東静岡は最近の例で言うと、珍しく面的な開発をしたところですけども、十分活用ができていないという状況ですね。バラバラに利用されて、特に市が持っていた側の北側の土地、東静岡の北側の土地というのは、バラバラの開発になってしまっているという状況です。

この静岡において、あれだけの面積の、面的なまちづくりができるという所は、おそらくこれが最後のチャンスだと思いますから、それは最後のチャンスをしっかりいかして、本当に、この地域社会のためになるですね、経済的にも、文化的にも、あるいは暮らしのためにも、「ここ、あってよかったよね」という、「よいところになったよね」というまちづくりをしていきたいと思っていますので、そういった面で、市もいろいろな関わりをしていますけれども、たいへん期待しているという状況です。

◆司会

はい、その他よろしいでしょうか。はい、中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

すいません、中日新聞です。一昨年8月の呉服町火災で、市は庁内の検証チームを昨年8月に結成してます。大長副市長をトップに検証が進んでいて、ヒアリン

グやアンケートもされて、終えたということで、当時、大長さんにちょっとお話伺った時には、12月末から1月には公表したい、そのアンケートの結果を、とのことだったんですけども、どうなってますでしょうか。

◆市長

はい。アンケートの結果というよりも検証ですね。検証委員会で検証をしてくださいましたが、やはり行政の目で再検証するというので、やってまいりました。具体的に言うと、現場で行われたいろいろな活動について、これが、例えば規程に合っているのか合っていないのかとか、そういったことについて、きめ細かく、今まで分析してきたところです。だいたいまとまって、どこにどういう問題があったかというのはわかってきましたので、どういう内容で発表するかについては、まだ検討中ですけども、2月中には発表できるのではないかなという状況です。

ですから、アンケートを独立して発表するというのではなくて、検証結果も含めた形で、検証結果の一部として、アンケート結果ですね、消防局の職員のアンケート結果も含めて、公表したいと思っています。はい。

◆司会

その他よろしいでしょうか。それでは、本日の会見はここまでとさせていただきます。ありがとうございます。

◆市長

はい、ありがとうございます。